

課題設定による先導的人文学・社会科学研究推進事業（領域開拓プログラム）
研究テーマ公募型研究テーマ 研究概要

課題

「認知科学的転回」とアイデンティティの変容

研究テーマ名

アイデンティティの内的多元性：哲学と経験科学の協同による実証研究の展開

責任機関

国立大学法人北海道大学

研究実施期間

平成29年10月～平成32年9月

研究プロジェクトチームの体制

研究代表者等の別	氏名	所属機関・部局・職名
研究代表者	竹澤 正哲	北海道大学・大学院文学研究科・准教授
分担者	太田 紘史	新潟大学・人文学部・准教授
分担者	田口 茂	北海道大学・大学院文学研究科・准教授
分担者	飯塚 博幸	北海道大学・大学院情報科学研究科・准教授
分担者	小川 健二	北海道大学・大学院文学研究科・准教授
分担者	高橋 泰城	北海道大学・大学院文学研究科・准教授

配分（予定）額

（単位：円）

平成29年度	平成30年度	平成31年度	平成32年度
2,925,000	3,770,000	3,640,000	2,827,500

※平成30年度・平成31年度・平成32年度については予定額

研究目的の概要

20世紀末に入ると、自己、意識、間主観性という、従来ならば哲学の考察対象であった概念が、自然科学の手法を用いて研究されるようになった。だが、こうした科学サイドの動きを、哲学における豊穡な議論と融合しようとする試みは少ない。本研究では、現象学者を始めとする哲学者が、実証研究の現場に降り立ち、仮説構築から実験デザイン立案のプロセスにまで参画する。そして、複数の実証研究プロジェクトの展開を通して、哲学と科学が真の意味で融合した、新たな研究のロールモデルを提供することを目指す。

研究計画の概要

本研究では、現象学における自己の多元性に関する議論が、認知神経科学や発達科学で見出された自己感覚、他者認識の神経基盤に関する知見と酷似していることに着目し、複数の実証研究を展開する。哲学者が実証研究の現場に降り立ち、仮説構築や実験計画のデザインにまで参画する新たな共同研究のロールモデルを構築することが目的である。そのため、研究成果だけでなく研究過程をも公開シンポジウムで紹介していく。